

## SoTL 修了者の声

### SoTL プロジェクトに参加する意義

今まで 80 プロジェクト以上が SoTL プロジェクトに参加していますが全員が非常に意義があった、あるいは意義があったと回答しています。その主な理由は次のようなものでした。

- ・授業を長く担当していると、単調になってきますが、SoTL により、授業改善が進みます。
- ・研究として取り組むので、エビデンスに基づいて、現状の教育活動のメリット・デメリットを抽出でき、自身の教育活動改善だけでなく、学部全体での教育活動改善を訴えられます。また、教育改善+自身の研究業績を増やせることから大いに研究として取り組む意義があると思います。
- ・授業改善や開発に研究として取り組むことが、帝京大学・教員個人としても大きな実績になります。
- ・授業力の向上は、教師である限り絶対に必要なことです。特に、計画を立て、手続きを経て、実践的に研究することが大切です。そのような意味で SoTL は、大変重要で貴重な機会だと思います。

### SoTL プロジェクトに参加してよかったこと

- ・学部内外の先生方とコラボレーションできるきっかけとなったことです。
- ・自学部だけでなく、普段は知ることのできない他学部の実践や研究を知ることができました。
- ・このプロジェクトの交流を通して、その後の授業についての多くのヒントが得られたことです。
- ・SoTL で着手したことを基に、学科全体の教育改善プランを立案し、教育改善等改革プログラムへ応募した。

### 気持ち、意欲、意識の変化

- ・データと学生の声に基づいて授業改善する楽しさを知ることができたことです。
- ・目標を設定することで「どの視点からどのように改善するか」の視座ができ、その成果にまで意識が向くようになり、特に PDCA の PDC の意識が高まりました。
- ・第三者に講義内容を伝達することを自分自身が意識するようになりました。そのため、講義改善の結果を評価するための目標を講義中に意識することができました。
- ・チャレンジした実践教育は客観評価することで教育研究として価値が高まることを経験でき、教育研究として形を残すためには何を押さえなくてはならないのか考えるようになりました。

### 実際に変わったこと、できたこと

- ・授業を面白いものという気持ちを学生と共有でき、学生のやる気を引き出すことができました。
- ・SoTL に参加することにより、普段の取り組みを研究としてまとめることができました。
- ・長年の課題であった受講生の数の少なさと脱落者の多さが劇的に改善されました。
- ・研究を軸に考えて、目的やねらいを意識して授業を展開できるようになりました。

### 他の教員に本プロジェクトを勧めたい理由

- ・自身の授業の在り方に向き合うことができる。期限が決められているので、そのペースで評価できるようにプランニング能力が身につく。
- ・授業を研究対象にする方法（手軽な方法を含めて）を学ぶことができること、その失敗や成果を学

部を超えて共有できること。

- ・教育研究の非専門家の教員が教育を題材にした研究報告に参加できることが、SoTLを他の教員に勧める理由です。多くの教員はCTLの研修に参加した経験があるので、参加しやすいと思います。
- ・このプロジェクトは、最終報告までシステム化されているため、必ず成果となり、経験と業績がupすることは素晴らしいので勧めたいと思います。

## インタビューによる応募前と採択・修了後

### A先生

**応募前：**論文が書けない、書かなければならない、東日本大震災で自分の価値観が揺らいだ自信（無力感）、教材費が得られる。

**採択・修了後：**発表がなければ、うまくいった・いかなかった程度で終わるが、研究目線で自分の授業を見ると、何が変わったのか、変わったことをどう説明するかなどを考えるようになる。学生は確実に変わっているがこれをどう表現するのかに苦労している。

### B先生

**応募前：**大学の中で研究をしたい、自分の授業のクオリティーを確かめたい、単位の修得率の向上を図りたいという自己要求に対して、学科は、良い先生ばかりですが、一緒に仕事をやりましょうという方がいなかった。PBLに興味になさそう。私は必要とされていないのか。一日仕事をしても誰とも話をしていない状態が続いた。SoTLプロジェクトは授業を良くしようという先生方の集まりということで期待した。さらに、周りはSoTLに興味になさそう、競争率も低そうと思った。

**採択・修了後：**SoTLで成果を出すことによって学科内で認められるようになった。自分が漠然とここだけは大事にしたいと思っていることが評価されることによって間違っていない、大事にしていんだと思った。単位の修得率が上がった。

### C先生

**応募前：**授業が成り立たない、縦割りでは他の先生に聞きにくい、自分で解決するしかない、経験や感触として学生に向き合うのではなく、研究として向き合っ、学生や学科にデータとして示せば、何かの布石にすることができるのか。悩んでいたらたまたま帝京大学には高等教育開発センターがあることを知り1番ここが自分の悩みを解決できる場所なのかなと思った。

**採択・修了後：**教師を育てているので、このぐらいは、身につけて欲しいという気持ちが強く、先生は、自分の思い通りにならないと、全部それを学生に押し付けるというのを何度か学生に言われた。学生とのずれが大きかったことに気が付いたのが私自身の大きな変化へと連なった。この大学の学生の特性や気持ちに気づくことができたことで、私が変わると学生も変わったので、自分が押し付けていたことを再認識した。異分野の教員とのコラボで相乗効果を期待して、SoTLに応募の準備中。

## インタビューを通して記憶に残っていること

- ・外部への資金援助への応募では採用・不採用通知のみであったり、評価結果が添えられてはいるのですが、どのように改善すればよいか分かりません。このSoTLプロジェクトは何を明確にしなければならぬのか、そのために何をすればよいか、などの指導があるので、大変助かります。
- ・中間発表でSoTLに要求されるレベルがわかり、大変参考になった。うまくいった・いかなかったレベルから脱する機会になった。自分一人でそのまま続けているとどうなったか恐怖を感じました。